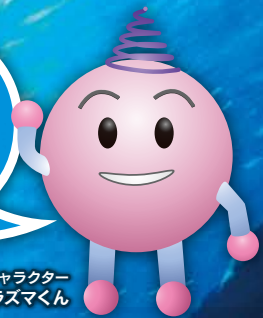




核融合科学研究所
第23回 国際土岐コンファレンス

市民学術講演会

NHKスペシャルで
放映、映画化された
撮影プロジェクトについて
ご紹介します！



NIFSマスコットキャラクター
プラズマくん

ダイオウイカとの出逢い

— 最新技術でせまる深海の世界 —

絵：Henry Lee 著 “Sea Monsters Unmasked” (1883年)より



その昔、海魔と恐れられた巨大イカ…
人類に残された最後の秘境「深海」に
幻の巨大生物ダイオウイカを追い求めた壮大なロマン。
苦難の末、ついにその生きた姿の撮影に成功した
窪寺博士が、NHKスペシャル番組で放映、映画化もされた
その大規模プロジェクトについてご紹介します。

講師 窪寺 恒己

(クボデラ ツネミ)

国立科学博物館標本資料センター・コレクションディレクター、
分子生物多様性研究資料センター長併任

1951年8月4日、東京中野に生まれる。小・中・高と東京で学び、北海道大学水産学部、大学院を経て1982年水産学博士。
1984年より国立科学博物館動物研究部の研究官、主任研究官、室長、研究グループ長を経て2011年より現職。専門は
海洋生物学、とくに頭足類の分類・生態学、高次捕食者の食性研究など。2004年、小笠原沖の深海でダイオウイカの
生きている姿を世界で初めて撮影し、世界中の注目を集める。

2012年、NHK・ディスカバリーチャンネルと共同でダイオウイカの生態映像の撮影に成功し、さらに世界中を驚愕させる。

T S U N E M I K U B O D E R A



2013

11.19

18:30~20:00
(開場18:00)

土岐市 文化プラザ サンホール

(土岐市土岐津町土岐口2121の1)

▲ 昨年の講演会とは会場が異なります！ご注意ください。

先着順

入場
無料

主催

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
核融合科学研究所

総合研究大学院大学
物理科学研究科 核融合科学専攻

後援

文部科学省／岐阜県／岐阜県教育委員会／土岐市／土岐市教育委員会／
一般社団法人 プラズマ・核融合学会／核融合科学研究所／中部ESD拠点協議会*

お問い合わせ

自然科学研究機構 核融合科学研究所 大学院連携係
〒509-5292 土岐市下石町322-6 TEL.0572-58-2843 FAX.0572-58-2603

<http://www.nifs.ac.jp/>



ダイオウイカ との出逢い

— 最新技術でせまる深海の世界 —

窪寺 恒己

国立科学博物館・標本資料センター・コレクションディレクター

クラークエン・シーサベント・海魔：16世紀から始まる大航海時代、海の魔物と恐れられていた謎の生き物、巨大イカ、それがダイオウイカ。ダイオウイカは、無脊椎動物の中では最大級の生き物で動物ギネスブックによると、1966年大西洋バハマ沖で捕獲された全長（鰭の後端から触腕の先端）14.3mの記録がある。

今までに、欧米の研究者が生きているダイオウイカを、その生息している深海で特殊カメラや有人潜水艇をもちいて撮影することを試みるが、すべて、失敗に終わる。

そこで、我々は2002年から小笠原父島沖で小型デジタルカメラ・ロガーをもちいて深海性大型イカ類の調査を始めた。そして2004年9月、深度900mの深海で世界初となる、ダイオウイカの静止画を撮ることに成功した。さらに2006年には、深度650m付近からダイオウイカを釣り上げ、その動き回る姿をビデオカメラに記録しメディアを通じて世界中に発信し、世界を驚愕させる。

それらの成果を受けて、NHKグループはダイオウイカが深海で泳ぐ姿を実際に撮影しようとする大規模プロジェクトを計画した。私も研究者として参画することになった。

そして、2012年夏、40日間におよぶ小笠原ダイオウイカ撮影大プロジェクトが敢行された。その成果は、ダイオウイカと人類の初の遭遇という快挙となり、2013年1月13日NHKスペシャル「世界初撮影！深海の超巨大イカ」で放映された。そのプロジェクトの実態を、実際に参加した研究者の立場から紹介する。

講師

窪寺 恒己

(くぼでら つねみ)



国立科学博物館・標本資料センター・コレクションディレクター
(併：分子生物多様性研究資料センター長)

1951年東京生まれ。北海道大学水産学部卒業。北海道大学大学院水産学研究科博士課程単位取得の後、退学。1982年、水産学博士。1982-83年、米国オレゴン州立大学海洋学部研究助手。1984年より国立科学博物館動物研究部の研究官、主任研究官、室長、研究グループ長を経て2011年より現職。専門は、頭足類の分類・生物学、高次捕食者の食性研究。第28次日本南極地域観測隊（海洋生物担当）に参加。

著書

日本近海産貝類図鑑：頭足類（東海大学出版会：2000）、イカーその生物から消費まで：イカ類の生理・生態（成山堂書店：2002）、日本列島の自然史：南のタコ・北のイカ（国立科学博物館叢書：2006）、海に生きるものたちの掟（サイエンス・アイ新書：2009）、新鮮イカ学：第10章・巨大イカ暗黒に舞う（東海大学出版会：2010）など。新種頭足類17種の記載論文のほか、頭足類の分類・生態に関する学術論文、報告書など多数。

特記

2004年、小笠原沖の深海でダイオウイカの生きている姿を世界で初めて撮影することに成功し、世界中の注目を集める。この事件は2005年のNational Geographic News Stories Top 10の第一位に選ばれた。また、2006年には同じ小笠原沖で実際に生きたダイオウイカを釣り上げ、その動き回る衝撃的な映像をニュースメディアに公表し、世界を驚かせ続ける。2007年、ニュースウイークの「世界が尊敬する100人の日本人」に選ばれる。2008年、ニュージーランド国立博物館にて南極海で捕獲された巨大イカ・コロッサル・スクイッドの標本作製に協力し、その様子はDiscovery Channelを通じて世界中に広く発信された。2012年7月、NHK・Discovery Channelと国立科学博物館の共同プロジェクトでダイオウイカの生態映像の撮影に成功し、2013年1月にはNHKスペシャル番組・ディスカバリーチャンネル自然番組として発信され、世界中を驚愕させる。

[会場案内図] 土岐市文化プラザ サンホール
(土岐市土岐津町土岐口2121の1)

[お問い合わせ]

自然科学研究機構 核融合科学研究所 大学院連携係

〒509-5292 土岐市下石町322-6 TEL.0572-58-2843 FAX.0572-58-2603

<http://www.nifs.ac.jp/event/itc23lecture.html>

